

ふたりのコラム

May 31, 2021

認定こども園あかみ幼稚園 園長 中田幸子
認定こども園メイプルキッズ 施設長 新井利枝

《3・4・5 歳児》

もり組 遠足に行ってきました！



緑が美しく、風が心地よい季節になりました。もり組が、大型バスの遠足ではなく、三轟山ヘクラスごとに園バスで遠足に出かけています。駐車場から目的地まで、子どもの足で 20 分くらい。子どもたちは、しっかり目的地まで歩いていきました。さて、先方で別の団体に出会ったそうですが、そこでは、引率者の笛の合図で「男の子トイレに行って」、再度笛にて「女の子トイレに行って」という指示が飛んでいたそうです。生活の自立、主体性、ジェンダーについてなど、いろいろなことを考えさせられる話でした。

楽しいね！！

3 歳児の子どもたちが、外で絵の具を手に塗り、ペタペタと手形を押しては、キャットと言ったり、ローラーにつけて色を塗ったり、自分の手と手を合わせて、感触を楽しんだりしていました。

また、4 歳児の砂場では、「ここ固めるね」、「トンネル掘ろうか」などと会話を交わしながら、友達と一緒に一つの山を作っていました。

5 歳児のあるクラスでは、綿に水性マジックで色を付け、竹串を指して袋の中に入れ、袋を絞って綿あめ作り。手先を使いながら、一連の作業を友達と一緒にやり、お客さんを呼び、できたものを売るという、遊びの発展がみられていました。



このように、園生活に慣れて、自分の好きな場所やお気に入りの友達などが見付きり始めている時期です。自分の好きなことに、とことん向かうことは大切です。自分で決めたことができる時間をしっかりとるということは、学びの姿勢を築く上でとても重要です。あかみ幼稚園では、そのような時間が保障されています。そのようなことから、大きい学年になると少し先の目的を持ち、見通しを持って、自分たちで決めて行動することができるようになっていきます。誰かに指示をされて動くということではなく、自分で向かう方向（ねらい）を決め、その手段（方法）を考え、実行するという、自ら未来を切り拓いていくことができるような人になることを願っています。

きれいな湧き水 出流原弁天池

佐野市幼稚園連合会（佐野市のすべての認定こども園・幼稚園、12園が加盟）で、教職員募集のポータルサイトを作成した際、私たちの園がある佐野市の見所や良いところの紹介をしました。

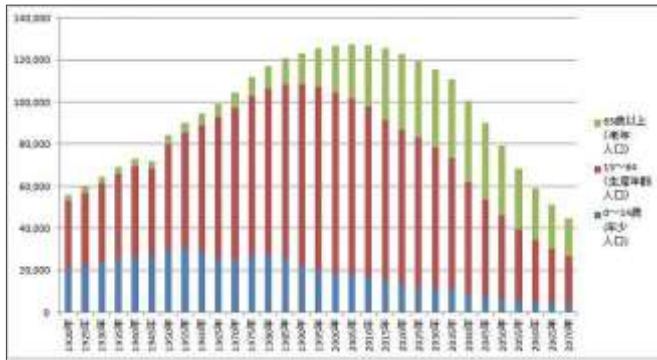
自分たちの住んでいるところの良いところを知る、そして発信することは大切なことだと改めて感じました。

園の近いところに、とても水がきれいな出流原弁天池があります。多くの方が行ったことがあると思います。これから暑くなる季節、マイナスイオンたっぷりの池のほたりがとても気持ちよさそうですね。

さて、このように地域の良いところに目を向け、私たちが住んでいる郷土を大切に、そのことが未来を担う子どもたちにも受け継いで行ければ良いですね。



地域とのかかわり（幼年消防クラブ）



これから、日本の人口がさらに減少していきます。その中で、地域がどのように成り立っていくのか。自分たちが、住んでいるまちが住みやすいところであるために、私たち一人一人が、地域を愛し、地域の一員としての発言し、行動していくことが大切です。持続可能な社会を創るために、私たちはもちろん、子どもたちも社会に対して働きかけられるようになったら、いいですね。まずは、子どもたちが地域への関心やつながりを感じることから大切にしていきたいものです。

あかみ幼稚園では、4・5歳児が幼年消防クラブ員となっています。4歳児には、幼年クラブ員証が今後発行されます（4歳児、先日法被を着て写真撮影）。活動内容は、出初式への参加・火災運動街頭ビラ配り・起震車体験・防災映画による注意喚起などです。年度によって、内容等が変わりますが、地域に出向いて行って活動したり、消防士の方から話を聞いたりするなど、社会とのつながりを持っています。今年度は、6月に5歳児が、起震車体験をします。これは、一例ですが、社会で働いている人の姿に関心を持つこともはじめの一歩ですね。



（文責：中田）

《0・1・2 歳児》

すっきりと晴れた日には清々しさを感じ、半そでで過ごす日が増えてきましたね。もうしばらく晴れた日々が続くといいのですが、明日からは6月、梅雨の時期を迎えます。九州から東海にかけては、平年より3週間も早く梅雨入りしたようですが、関東ももう直ぐでしょうか？くせ毛の私は、湿気が大の苦手です。髪の毛のうねり具合で湿気がわかってしまいます（笑）。

さて、新年度がスタートしもう2か月、子どもたちも新しい環境に随分慣れてきたようです。毎年、慣れるまでもり組の子が小さいクラスの子のバスの送迎時のお世話をしてくれているのですが、今年も本当によくやってくれていました。朝、2歳児の子を昇降口まで手を繋いで連れてきてくれたり、帰りのバス乗り場で座る場所を教えてくれたり・・・。



また、日中の保育の際にも、お店屋さんの宣伝や販売等小さいクラスの子を気に掛ける姿が見られています。きっと自分たちも小さいクラスの時にお兄ちゃん、お姉ちゃんにやさしくされたことを覚えているのでしょうか。そして、もり組だけでなく、年中組のお兄ちゃん、お姉ちゃんも本当によく下の子の面倒を見てくれています。きっとお家でも「下の子をお願いね」など話をしているのかもしれませんが、お家の方が思っている以上に、しっかり面倒をみてくれていますよ。先週の雨の日も、バスから降り、テラスを通過して保育室へ向かう兄弟の子が数人・・・昇降口付近では、お姉ちゃんが下の子が靴を脱ぐのを手助けし、脱いだ靴を手渡した後、手を繋いであげていました。お姉ちゃんの言う通りに、必死に靴を脱ごうとがんばっている下の子。その後は、下の子の靴箱まで一緒に行き、「またね」と笑顔でバイバイ。メイプルキッズの保育者から「送ってくれてありがとね。いってらっしゃい」と声を掛けられ恥ずかしそうに手を振り自分のクラスに向かうお兄ちゃん、お姉ちゃん。その後ろ姿は、とても大きく感じました。小さな子どもたちが、お家の方から離れ初めての社会生活の場でもある園での毎日・・・。



その中では、本当にいろいろな経験をしていきます。

こうしたほんの些細な出来事ですが、子どもたちにとっては、ちょっぴり不安なことも、やさしくしてくれる、お兄ちゃん、お姉ちゃんがいるから安心と思えることでしょう。また、面倒をみる子たちにとっては、それが誇りと自信につながります。お家でもぜひ「小さい子の面倒を見てくれているんだね」と労いの言葉をかけてあげてくださいね。こうした経験から非認知能力のひとつでもある「他者への配慮」も育っていくことでしょう。非認知能力は「子どもが自ら置かれた環境で自ら身に着けていく」力でもあります。子どもの伸びる力・・・。私たち大人が応援していきたいですね。

さて、話は変わって、今年の1歳児。はこべ組に4月から新たに13名が入園しました。担当保育者が一人ひとりに丁寧に関わり、少しずつ関係もでき、毎朝笑顔で登園するようになってきました。小さいクラスでは月齢の差も大きく、「只今あんよの練習中！」の子も何人かいます。筋力がついてくるにつれ、しゃがんだり立ち上がったといった全身運動が活発になり、つかまり立ち、伝い歩きから徐々にひとりで歩けるようになります。歩けるようになるとさらに行動範囲も広がり、好奇心旺盛になり、探索行動が盛んになっていきます。まさに、今、はこべ組の何人かの子はこの発達途上、まっ最中なのです。伝い歩きや一人歩きができるようになったのが、うれしくて楽しくて仕方ないといったところでしょう。つかまれるところを見つけては、ひょいっと立ち上がり、そこから恐る恐る歩き出す。そして満面の笑顔で「見て」と言わんばかりに保育者に視線を送り、一步一步近づこうとしてきます。そんな子どもたちの姿を保育者は笑顔で、時にはやさしい声を掛け、関わっています。動きが活発になると、よちよち歩きであちこち行っては、探索を始める子どもたち……。きっと保護者のみなさんも経験があると思いますが、大人からすると、まったくもう・・・とってしまうこともあるでしょう。

つい先日も、そんな探索意欲満々の子どもが戸外から戻ってきて着替えをしてる時、一人でよちよち反対方向へ歩き出していました。すると、その姿に気づいた保育者が「あら〇〇ちゃんもうそんなに早く歩けるようになったのね。歩けるのうれしいもんね。あちこち行きたいよね。」と声を掛けながら無理に戻そうとせず、その子に寄り添っていました。

私はその姿に、さすが、プロの保育者だなと同僚ながら感心してしまいました。ほんの小さなことですが、こうした子どもの気持ちに寄り添った行動は愛着関係を築くうえでも大切だと思っています。

「この人がいるから大丈夫！」子どもたちにとって、そう思えることが今後の発達にも大きく関わっていきます。そんな子どもたちの安全基地になれるよう、私たち保育者は、常に子どもたちに寄り添い保育をしていきたいと日々思っています。



ちょっと心温まる話を・・・

メイプルキッズの看護師から聞いた話です。ある日の夕方、一人の保護者に声を掛けられ、携帯の画像を見せられたそうです。「この人ですよね？」と、そこには、産婦人科に勤務していた当時の看護師本人が写っていたそうです。「私です、え？」とびっくりしていると、その保護者は、「当時その産院で出産し、その際にとっても世話になり印象深く残っていた、まさか、園で会えるとは思ってなくてうれしくて声を掛けた」とのことでした。後日、私とその保護者に会った時に、「すごい縁ですね」と声を掛けたところ、「急遽一人でのお産になり不安でいっぱいだった時、看護師がずっと手を握ってくれて本当に心強かった」と言っていました。そのことを看護師に伝えると、本人は謙遜していましたが、「あの時の子が、もう入園なんですね。また看護師として関われるのはうれしいです」と言っていました。素敵なエピソードに看護師の仕事って尊いなとこちらまで温かい気持ちになってしまいました。 (文責：新井)